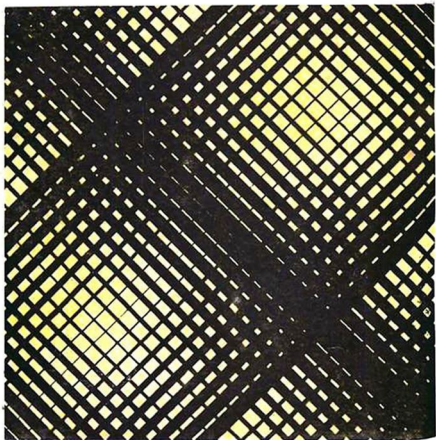


美術年報

1982



徳島県美術家協会



はじめに

第36回県展開催については皆様方に多大の御協力を
いただきまして厚く御礼申し上げます。おかげ様で盛

会に終わることができましたが出品者が多くなるにつれて会場の問題が今
後何とかしなければならぬという宿題が残ったように思います。

県の「文化の森懇話会」は一昨年より引き続いて昨年より「文化行政懇
話会」として検討を続けておりますが、その中の美術館の問題につきまし
ては昨年より新しく「美術館基本構想検討委員会」が発足し、美協よりは
河崎良行氏、久保庵香氏、佐野比呂志氏、津地威汎氏、長尾弘子氏と私の
6名が委員として出席しすでに2回の委員会を開催いたしました。2月には
委員が各地の美術館を見学に行き、検討委員会の参考資料としました。
美術館にはミュージアムとしての美術館とギャラリーとしての美術館があ
りますが、徳島県の美術館はその両方を兼ねたものにする方向で検討する
こととしております。私が委員長に推されていますので責任が重いのです
は理想的なよいものにしたい考えで県内の委員9名、県外の特別委員3名
が、作る以上と共に鋭意検討しております。私の考えではよいものを作っ
ても、あとの運営が大切で優れた館長と優秀な学芸員を早目に物色する必
要があらうかと思えます。幸いに三木新知事も美術館建設については熱意
を持っておられるようですから将来が期待されます。

皆様の御協力と御理解、御指導をお願い致します。

昭和57年3月

徳島県美術家協会会長 河野太郎

徳島県美術家協会規約

昭和25.9.12	規約制定
32.7.14	新規約制定
33.4.29	規約一部改正
42.4.23	"
46.4.29	"
47.5.29	"
49.8.22	"
52.7.23	"
56.5.5	"

第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島県立図書館内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫塑
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦商業美術

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

㊦展覧会 ㊦講習会 ㊦講演会
㊦観光美術の振興 ㊦その他必要な事業

第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

会 長 副会長（2名）

理 事（若干名）監 事（2名）

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から4名以内推せんする。役員任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員を選出、規約の改定、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあっては3名、31名以上の部にあっては、さら

に10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

部会長・委員（部会員数の3割以内）

部監事（2名）

役員は部総会で選出する。役員任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員を選出その他重要事項の審議を行う。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり1,500円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,000円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

（参 考）

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所5階講事場で行う。事務所を徳島新聞社内に置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館（現在の県立図書館）内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会バッヂを選定（图案は丸塚副会長）

☆昭和35年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事（3名～4名）によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部（日本画・洋画・写真・彫塑・美術工芸・書道）のうえに商業美術が加わり7部組織となる。

昭和55年度 事業報告

1 総 会

- 昭和55年6月22日
- 県郷土文化会館 4F 第4・5会議室
- 昭和54年度事業報告及び決算報告
- 監査報告
- 昭和55年度事業計画及び予算審議
- その他

2 理 事 会

- 昭和55年8月2日 55年度事業、第35回県美術展など
- 昭和55年12月19日 県展反省、次回展の検討など

3 第35回県美術展

- 昭和55年11月8日(土)～16日(日)の9日間
- 県郷土文化会館
- 7部門の作品展示(758点)

4 第21回博美展(県博物館共催)

- 第1期 55.5.14(水)～18(日) 日本画・書道
- 第2期 55.5.21(水)～25(日) 洋画・彫塑・工芸
- 第3期 55.5.28(水)～6.1(日) 写真・商美
- 県博物館大会議室ほか

5 県美術講習会(洋画部主催)

- 昭和55年6月1日 越町中町一帯
- 野外写生の講習
- 講師・洋画部委員

6 美術年報の発刊

- 昭和56年2月
- 県展記録・各部門の歩み・会員名簿など

7 各部委員会・その他

- 日本画(56.1.15)
- 洋画(55.4.25 6.28 9.20 56.3.16)
- 写真(55.7.5 10.4)
- 彫 塑
- 美術工芸
- 書 道(55.6.29)
- 商業美術

- 第35回県展書道審査員打合会 (55.10.4)
- 第35回県展審査員<書道を除く>打合会 (55.10.18)
- 県芸術祭巡回行事 移動県展への出品
 - 池田会場<55.11.22~11.24>
 - 牟岐会場<55.11.29~12.1>
- 美術館建設促進委員会 (55.8.2)
- 美術館建設促進の陳情 (56.1.27県知事へ)

8 各種後援

- 山内春曉人日本画展 (55.4.11~4.16)
- 第38回世代美術展 (55.4.17~4.20)
- 第9回東玄書道会展 (55.4.26~4.29)
- 第13回成蹊書道展 (55.4.28~4.30)
- 第18回ADG展 (55.6.26~6.30)
- 11にん展 (55.7.1~7.6)
- 第36回新作日本画展 (55.7.3~7.6)
- 写真同人「災」写真作品展 (55.8.22~8.24)
- 第10回直心会書展 (55.9.5~9.7)
- 県美協書道部選抜展 (55.9.5~9.7)
- 第25回書協人展 (55.9.5~9.7)
- 第35回宵美展 (55.9.9~9.11)
- 第15回清潮会書作展 (55.9.13~9.15)
- 第6回克展 (55.9.20~9.21)
- 第9回徳島雪心会書作展 (55.10.8~10.10)
- 第10回光輪社書作展 (55.10.8~10.18)
- 第27回書芸院展 (55.10.26~10.28)
- 第15回春潮社日本画展 (55.11.28~11.30)
- 第5回徳島かな書道研究会展 (55.11.28~12.1)
- 第7回桂鳴書展 (56.2.6~2.8)
- 第12回徳島大学書道部卒業制作展 (56.2.7~2.8)
- 第10回記念四国女子大学書道部学外展 (56.2.13~2.15)
- 徳大書道研究室卒業制作展 (56.2.21~2.22)
- 第10回ナルトびんぼけクラブ写真展 (56.3.20~3.23)
 - <記念写真集を刊行>
- 第1回城南高校書道部OB展 (56.3.28~3.29)

各部役員名簿

日 本 國

部会長	後藤	藤野	春行	瀬夫	徳島市
委員	長田	尾瀬	弘冬	子	〃
〃	森	〃	馬正	瀬(煇夫)	鳴門市
〃	橋長	本谷	〃	苑(義夫)	阿南市
〃	釣	島上	冬	弘	〃
〃	村	川	凌	壽	〃
〃	矢中	野川	秋	樹(義雄)	鳴門市
〃	吉	崎	〃	雪	〃
〃	藤	原	三	漢(昇)	〃
監事	高	野	瑞	健	名西郡
顧問	山	内	雪	逸	徳島市
〃	高	岡	野	蒙(正義)	那賀郡
〃	〃	〃	背	智(英彦)	鳴門市
〃	〃	〃	春	卦(為三郎)	徳島市
〃	〃	〃	何	人	〃
〃	〃	〃	有	〃	〃

洋 國 部

部会長	平河	沢野	いさ	む	徳島市
委員	俊永	野山	太比	郎志	〃
〃	武今	市田	比盛	二	〃
〃	後藤	田	善次	郎男	名西郡
〃	立	岩	史仁	一	徳島市
〃	立	木	多	子	〃
〃	立	原	実	嚴	名西郡
〃	立	橋	雅	雄	徳島市
〃	立	田	康	孝	三好郡
〃	立	田	青	敬	徳島市
〃	立	田	博	叙	〃
〃	立	田	博	司	麻植郡

委員	田川地野本	務	海部群
監事	松津天湯	成	名西郡
		被	徳島市
		三	市
			鳴門市

寫 真 部

部長	西福	二仁元	鳴門市
委員	酒	司	徳島市
	菅	雄	名西郡
	床	新	阿南市
	藤	梵	徳島市
	木	之	麻植郡
	武	亨	阿南市
	井	雄	徳島市
	勝	夫	鳴門市
	川	と	徳島市
	柳	鶴	鳴門市
	三	之	那賀郡
	岡	夫	徳島市
	納	務	鳴門市
	山	雄	鳴門市
	林	正	板野郡
	安	郎	徳島市
	森	剛	鳴門市
	林	一	阿南市
監事	橋	彦	鳴門市
		祐	

彫 塑 部

部長	河大	行昭	徳島市
委員	佐	隆	阿南市
	浜	憲	徳島市
	録	宏	鳴門市

委員 監 顧	員 事 " 司	井 瀬 吉 坂	下 部 田 東	俊 瑞 尚 文	作 城 行 夫	那賀郡 小松島 徳島市 "
-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------------------

美術工芸部

委員 監 顧	員 事 " 司	蓋 新 高 森 七 山 森 矢 松 多 福 高	床 居 橋 桑 上 野 下 花 井 橋	誠 昌 三 猪 三 敬 道 佐 代 特	一 猛 勇 男 郎 郎 憲 治 一 介 子 之 武	北西郡 徳島市 " " " 鳴門市 " 板野郡 徳島市 " "
-----------	------------	--	---------------------------------	---------------------------------	---	---

書道部

委員 監 顧	員 事 " 司	田 荒 富 三 田 木 豐 波 春 西 高 長 新 芝 成 前 上 久	中 井 永 田 中 岐 辺 藤 岡 原 江 居 原 尾 川 田 保	双 天 眉 栢 栢 泰 草 大 楚 清 清 畫 羅 莊 吉 漢 幽	鶴 鶴 峰 鶴 翠 泉 石 耿 峰 泉 幽 州 鶴 秀 舟 水 香	徳島市 " " 板野郡 徳島市 " " 板野郡 徳島市 阿南市 徳島市 麻植郡 徳島市 " " " "
-----------	------------	---	---	---	---	---

委員	清水	水田	桂川	月風	德島市
"	小喜	村市	創成	廣發	"
"	武喜	多	成成	登海	麻植郡
"	武喜	馬島	鳴幸	實賀	板野郡
"	美近	谷	美	美	德島市
"	中藤	谷	史	苑子	鳴門市
"	藤田	中	長	流峰	"
"	藤田	若	長	風鶴	小松島
"	長原	原	昭	月苑	名西郡
"	岡中	田	美	葵	德島市
"	日長	山	卓	勝	小松島
"	大田	柳	尊	野	板野郡
"	後	下	尊	野	小松島
"		谷	卓	野	板野郡
"		松	溪	野	德島市
"		村	美	野	"
"		藤	洞	野	"
"			昇	野	"
"			秀	野	"
監事					
顧問					

商 業 美 術

委員長	定本	盛三	男一	北西郡
"	本野	光昌	夫	板野郡
"	野藤	昌	嶋	德島市
"	藤中	管	男	"
"	口	第一	次	板野郡
"	本井		郎	麻植郡
"			功	小松島
"			實	名西郡
"			章	德島市
監事				

第36回県美術展出品・入選等状況

部 門 区 分		日本画	洋画	写真	彫 塑	工 芸	書 道	商 美	計
		出 品 数	83	240	538	38	79	853	77
入 選	率	60.2	32.9	25.3	57.9	58.2	37.4	61.0	36.6
	特 選	3	4	8	1	3	10	3	32
	準特選	2	5	11	2	2	16	2	40
	入 選	45	70	117	19	41	293	42	627
	計	50	79	136	22	46	319	47	699
落 選	率	39.8	67.1	74.7	42.1	41.8	62.6	39.0	63.4
	落 選	33	161	402	16	33	534	30	1,209
招 待 等	招 待	7	9	11	6	7	22	—	62
	無鑑査	—	—	2	—	2	6	1	11
	特 別 出 品	3	4	—	—	—	6	1	14
	賛 出 助 品	—	20	—	—	1	—	—	21
	計	10	33	13	6	10	34	2	108
展 示 数		60	112	149	28	56	353	49	807

36 回 展 の 記 録

会 期 56.11. 7~15

会 場 県郷土文化会館

日 本 画

〔審査員〕	坂口麻沙子			
〔招待〕	後藤 春潮 田淵 冬湖	村上 凌雪 中川 健	長尾 弘子 矢野 秋溪	荻野 行夫
〔特別出品〕	篠原 三遊	高岡 何有	山之内春曉人	
〔特選〕	近藤百合子	西野 和男	土井 洋子	
〔準特選〕	中西 芳雄	山本 志男		
〔入選〕	森 蕙苑 木内 トシ 秋元よし子 市原美智子 三好 秀雄 佐々木久子 橋本 敦美 岡 正明 谷川智恵子 前川 富子 福本 和行 土肥 米吉	高田 瑞雪 上原 圭子 齊藤 蒼 松野 寛枝 福岡ムメ子 生田 勝子 野々瀬啓子 中原 俊江 滝口 信一 曾川 久夫 森 広美	魚井 恭子 松崎 安野 日浦 猛史 石黒 初枝 森内 明子 庄野 麗子 佐藤美久恵 三崎 厚克 野田 恵子 吉崎 進 森上 明浩	森本 収子 森下 芳雄 吉坂美智子 坂本美代子 三浦 敏子 近藤 正恵 竹内 緑 後藤田 実 佐竹 文雄 中川 正志 後藤久視子

洋 画

〔審査員〕	吉井 淳二			
〔招待〕	佐野比呂志 川原 康孝 露口 敏幸	永山 隆二 楠瀬 等	清水 函悞 高橋 敬	中川 隆史 立岩 巖
〔特別出品〕	河野 太郎	平沢いさむ	佐藤省三郎	長井 公雄
〔賛助出品〕	天野 節 後藤田仁一 榊田 務	今田 史男 武市善次郎 松川 寛	岡 多実子 多田 青叙 湯本 禎三	柏木 雅雄 津地 威汎 青山 盛雄

〔特選〕

〔準特選〕

〔入選〕

浅田 二郎	大神 良代	岡久 薫	鎌田 富則
河田 安市	黒崎 志郎	鈴木 勝次	板東 俊一
齊藤 靖子	西川 周三	岡本 征二	藤川 明子
服部 裕	真野 孝彦	福野 稔	正方久美子
吉永 房子			
森 依頸	大宮 和雄	環 民子	八木 虎喜
菊地 栄子	田所 米子	藤原タマエ	中西 頼雄
伊勢 圭治	毛利 谷子	尾崎 孝幸	鈴木 明雄
岡野 弘子	佐藤 敬子	中野 仁美	賀木 道子
近藤 玲子	南 瑞江	岡田 光男	中川 理仁
田村 久恵	上田 美穂	平尾美智子	藤村 悦子
杉野 慶一	島村 英之	藤沢 洋子	松永 茂樹
藤埜 理	後藤エリ子	嵯峨 明子	原田チエ子
村上 忠之	原田 久雄	横田美智子	鈴江 栄治
薦田 崇子	元木 直子	下窪 光俊	宮内 英司
北島 溢美	林 陽子	手塚 玲子	山口美千代
中川美恵子	平田 義一	石原 一磨	福永 紀昭
田渕 浜子	武田 聖子	藤野 英樹	田村 喜代
大島 幸子	梯 三恵子	小笠原秋子	中村 房明
柴田 洋一	佐原理恵子	藍原 好浩	鎌田 弘子
河野 公子	橋本 安子	騎馬 政美	露岡 悦子
福本 守	原 泰子	下内 裕次	島上 二郎
岩佐 博久	篠原久美子		

写真

〔審査員〕

〔招待〕

〔無鑑査〕

〔特選〕

〔準特選〕

岩宮 武二	増田 清次	井上 光雄	木田 英之
福島 正仁	勝西 雅夫	藤井 梵	武内 亨
西条 征二	檜渕 魏	酒井 博司	
笹田 敏雄	上野 照文		
三好 和義	関口 務	林 敏彦	森 賢一
堀渕 完治	井藤 光章	中野 建吉	田村 泰弘
前浦 芳久	納田 康雄	水口 義行	鈴木 秀次
古井 謙吉			

〔入 選〕

逢坂 登	橋本 圭祐	尾崎 孝幸	佐治 利弘
岩崎 英昭	山本 徳仁	野口 佳一	
森 卓史(2)	安長 剛(5)	古井 謙吉(3)	納田康雄(2)
堀淵 完治(2)	中川 定典	関口 務(2)	久米 正雄
櫛淵 紳哉	国見 武男	石山 正明	西川 忠祐
須見 信男	篠原 元	田中 昭男	和田 勇
新浜奈穂美	長谷 進(2)	佐野 辰夫(2)	尾浦 元彦
吉本 武夫	橋本 圭祐(5)	城尾 静子(2)	岡崎 茂春
安藤 雅之(2)	森 賢一(2)	小池 良洋	松田儀平(2)
多田 照宏	佐治 孝(4)	富永 仁一(2)	多田晴美(2)
尾崎 孝幸(3)	林 茂利	堀本 信之	廣田千栄子
樋口 博美	吉田 憲介	尾崎 利男(2)	前浦芳久(6)
近藤 利夫	神野 朗(2)	川上たかと	小川 勝
小松 豊	山下 聿(5)	久米 健雄(2)	前坂 祥文
高田 為一	荒井 賢治	郡 寛	中村 敏雄
武地 雅	森 賢(3)	伊達 照子(2)	大野 武(3)
井藤 光章	宮城 高士(2)	湯本 一生(2)	住友貞夫(2)
中野 建吉(3)	野口 佳一(5)	田村 泰弘	和田 俊彦

彫 塑

〔審査員〕	土谷 武			
〔招待〕	河崎 良行	佐藤 隆	大津 文昭	浜口 恵
	井下 俊作	鎌田 邦宏		
〔特選〕	吉田 尚行			
〔準特選〕	原田 悦子	松永 勉		
〔入選〕	沢井 良昭	鎌田千枝子	尾浦 昭彦	神例悦次郎
	青山 好子	福生田紀江	村上 一彦	栗田 治
	渡辺 俊二	小林 正則	谷村 蕉子	山下 徹
	山上 正一	田上 芳輝	三好 昌也	吉富 悟明
	林 一美	石井 明範	吉原 英記	

美術工芸

〔審査員〕	田村 耕一
-------	-------

〔招待〕	釜床 誠一 森 浩	新居 猛 七条猪三郎	高橋 勇 多智花佐代子	森 昌男
〔無鑑査〕	松下 雄介	松下 慶一		
〔賛助出品〕	村上 正典			
〔特選〕	新居 文子	橋 惠	松館 善行	
〔準特選〕	橋本 嘉広	岡山ゆず実		
〔入選〕	北島 洋史(2) 堺 都美子 田村 功 坂口 博治(2) 高島 久枝 森 賢一 篠原 拓生 村田 千秋 谷 育子(2) 小栗加代子	平野仁太郎 森 弥栄子 香川 文孝 大西 勇 九十九健二 橋本 嘉広 山本 和子 新井 靖彦 松浦フミエ 林 康朗	撫養ミツエ 小原 令子 島 孝雄 吹田千世子 橋 惠 原田佳代子 影谷美代子 日浦 久代 川原万立子	松山 豊 森本 収子 平井 恵子 福山 光子 村上 裕二 三井 八郎 門田 照子 伊沢 勇 萬 英子

書 道

〔審査員〕	荒井 天鶴 西岡 楚峰	田中 双鶴	田中 栢翠	宮永 眉峰
〔特別出品〕	後藤 泰秀			
〔招待〕	久保 幽香 宮井 青雨 成尾 荘秀 三木田栢鶴 美馬幾美賀 長谷 美峰	新居 藍州 長原 阜鶴 渡辺 草石 芝原 醒鶴 春藤 大耿 勝瀬 景流	讃岐 泰泉 高原 清泉 長江 清幽 前川 古舟 岸 潮風	仲 三千人 西 南龍 原田 霄月 清水 桂月 中谷 史子
〔無鑑査〕	川上 虹泉 渡辺 桂華	三間 好鶯 日下 溪翠	近藤 静苑	松田 友栄

☆ 漢字の部

〔特選〕	上田 溪水	大松 華城		
〔準特選〕	岡田 華苑	武市 鳴雲	佐藤 真堂	島田 小園

〔入 選〕

山ノ井芝香
久敬 晃陽
奥野 雁峰
高田 青蓮
田中 昭峰
八木 澄江
駒田 水洗
能仁 華瑤
田村 昇鶴
阿部 明枝
坂野 章代
井内 桃園
久米 香風
速川 桂女
有井 大惺
西岡 五峰

洲崎 忠峰
大平 京園
岡田 英二
富士谷 溪雲
河野 多美
椎野 春翠
字山 安俊
以西 観溪
山内 雅風
新居 藍水
熊代 厚子
大松 静子
岡島 朱伯
中川 和子
鈴木 惠理
藤井 春琴

大塚 秀峰
近藤 聖邨
川城 峰碩
河原 紫峰
伊丹 東龍
長楽 優香
真鍋 春園
黒田 清園
長江 頌石
寺内 喜峰
福永 美泉
宇山 耿鶴
木村 海石
近藤 大裕
板東 智世
横田 素林

大下 江波
吉田 紫川
新居 桂州
宇野 玉峰
平田 南仙
山本 鳴水
山田 草雲
海原 曉風
山本 数馬
阿部 天柱
炭田 晴芳
小林 尚雲
吉田 溪舟
南 溪石
山瀬 嵐洲
児島 尚山

☆ 仮名の部

〔特 選〕

中尾 勝子
加藤 芳仙
大石加代子
松本 清香
田中 久恵
楠本比呂美
島田 翠芳
炭谷 霞江
吉岡 景鶴
金崎 知子
清村 宗子
上野 美恵
樫原 孝子
米津 溪泉
尾田 艶子
宮田久美子

竹田 和代
岡島 順子
富久 鳴泉
高島 瑞峰
清水 嘉子
喜内恵美子
高田 江雲
大塚 美溪
樫富 喜美
新開ひとみ
美馬 貞恵
小溪 景玉
矢野 華泉
久次米秀華
横山 泰子
赤岩 景琴

山中 真紀
鈴木 郁子
谷口 汀鶴
竹内 虹舟
中西 甫子
小堀 真利
菱崎 奈美
赤沢 梨軒
増田万里子
坂口貴美子
野上いづみ
増田 愛子
西浦 智頼
犬伏 礼子
桐野 玉葉

藤若 美風
下村 清子
大松 静子
辻 柏泉
西尾 恵花
中野 芳泉
藤井 扇舟
宮崎真由美
佐藤 佳泉
逢坂八虎子
古郷 弘江
谷酒 秀雲
竹中喜代子
出原 道代
岡田 幸子

佐野真智代	工藤 明代	薄田 玲泉	伊東 重子
山口 喜久	仁木 文苑	藤川 満理	小部 直子
堀瀧 琴流	表原 輝実	中川るり子	宮城 明子
橋田 富子	早澤 翠彩	中村美智代	広島 章子
海野 景泉	橋本 定枝	木蔵美紀子	畦地 佳子
森平 茂美	佐藤 啓子	大松 洋子	三原真由美
山本 芳竹	瀬藤 豊子	大北 明美	森本 紫峰
中筋 良江	杉本千枝子	三間 靖子	枝川 綾香
中村 佳子	山上 珪暉	佐木川寿美	永松 弘子
藤見 博美	加村喜美子	関 ひとみ	高橋 純子
亀石 二三	大石 真香	米沢 和美	井内 昌代
費手 洋子	西谷 公子	北橋 秀岳	秋吉 栄華
佐川 由美	岩橋賀瑞子	柚友 豊市	竹部 章子
森岡 美翠	影山 恭子	柿原 仁美	福岡 由貴
大南 りか	藤田真由美	森本 真美	近藤 安子
小井田境子	宵谷 薫	吉田 知代	増田 淳子
小川 隆子	白石 淳子	西山 葉子	西川 雅恵
原田 雅代	杉本 知代	光井 明美	阿利美智代
酒巻 徳子	河野 福美	古山 久子	高田 啓子
西木久美子	西川 知子	大柳 明美	長田 千尋
高田 典子	田中 映子	林 美枝	米沢 美穂
藤川満里子	八嶋千代美	平山 由美	飯領田久江
浅野 真弓	大澤 聖峰	佃 美記代	吉成 真於
赤川 景舟	岡 里美	西窪 貴子	松浦 瑞舟
阿部 千秋	盤崎 永醒	西村 佳峰	若木 聖章
吉田 史侖	横井三知代	佐藤 梅月	有沢由香里
細田 恵美	桑原 仁美	中村 浩子	東 弥生
宮本 博子	藤井 春琴	日下理津子	田中 龍子
加藤 亮子	高橋 和美	奥村 恭子	三木佐和子
須原 理恵	佐藤 敬子	棚橋千代美	田中 千恵
高橋 尚子			

☆ 近代詩文の部

(特 選) 坂本 霄風

[準特選]	多田 清芳	荒井 彭仙	浜 佳香	
[入選]	豊田 乾香	大松 碩城	野村 鳴洋	佐野 天靖
	清重 和雄	佐原 和清	久米 聰香	中山 青葉
	斉藤 虚白	喜多村成暎	高木 菜月	青柳 卓陽
	青柳 随風	濱本 清暹	小田 劍風	森岡 植幽
	河野 富仙	山口 文子	尾上 昭子	上野 尚穹
	大崎 辰雄	横谷千代美	栗田 白蓉	野村 英仙
	大島 溪石	近下 守	川又 敏香	佐藤 宗香
	藪内扶左子	高岡 晃祥	永松 春苑	永峰 郁子
	春川 青畑	桑田 操	林 卓葩	日開 卓嗣

☆ 前衛の部

[特選]	森岡 美翠			
[準特選]	竹内 溪邑			
[入選]	西川 由美	前川 益江	田中 秀翠	渡辺 翠邑
	林 桂翠	出淵 翠石	河口 泉翠	住友 松風
	木内 裕子	伊丹 香風	新見 榎郁	亀本 枝翠
	瀬部 楊翠	重松 翠坡	松村 祥風	佐々木 愛
	竹内 才石	小浜 曉風	萩原 溪山	江口 江月
	八光 秀美	谷口 昌代	山田 幸司	滝本 真理

商業美術

[審査員]	山城 隆一			
[特別出品]	宗定 盛男			
[無鑑査]	浅野 昌哉			
[特選]	岡 寿美	坂本三千一	吉本 實	
[準特選]	富本 雅人	斉藤 繁次		
[入選]	松本 富(2)	永井 道子(2)	渡辺 祐治	岩佐 雅功
	増田 和夫	斉藤志津子	市川 京子	武田久美子
	福永 紀昭	山ノ井誠子(2)	山口 志保(2)	久長敬治(2)
	藤本 孝明	後藤 都(2)	沢田 由美	仙谷 佳代
	田中 一郎	武田 聖世	深見満寿美	竜田 弥子
	環 民子	保宗 恵	富本 雅人(2)	堀田 真理
	大草 孝子	吉本 寛	宮本 光夫	増田 伸寛
	浅川 初美(2)	田村千代子	橋本 鈴代	山下まゆこ
	寺本 礼子	杉村 和美		

招待・無鑑査・特別出品規定 (昭和51.6.13制定)

☆ 次のものを招待とする

- 1 無鑑査出品を3回以上得たもの。(ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選を受賞ないときは失格)

☆ 次のものを無鑑査とする

- 1 特選を連続3回得たもの。
- 2 第1回より年回を問わず特選を5回得たもの。(ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選を受賞のないときは失格。準特選2回をもって特選と同値とする)
- 3 前回展の無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

(注) 同じ年回に特選及び準特選を重賞した場合は、それぞれ特選及び準特選を1回得たものとする。

また、特選と準特選を重賞した場合は、上位の賞を得たものとする。

☆ 次のものを特別出品とする

- 1 理事会で認めた会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員。
- 2 理事会で認めた各部会長、顧問、参与。

(注) 1 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、理事会で認められた事由がない限り、その資格を失うものとする。

2 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

3 この規定以外で審査をうけず出品する場合は、理事会の承認を必要とする。

第7回県展の頃のエピソード

洋画部委員 今 田 史 男



田川勳次のグッパン
「飲み屋のおんな」昭和27年11月

県展審査員として大阪から田川勳次画伯が徳島県展へ招かれた年は、忘れもしない29年も以前の、昭和27年秋であった。毎年恒例のように県展の審査が無事終了すると、主催者の徳島新聞社のどなたかを初め、当時県立図書館長であった今は亡き蒲池正夫先生達を交えて富田町辺りの料亭に繰りこみ懇親会、審査員を囲む会を開催した。――

今でもその懇親会が続いているように、我われ洋画部の委員みんなの楽しみの一つであった。その頃は美術家協会の会長は故原 菊太郎氏であったかどうか？ 余りにも古い昔話で記憶がはっきりしない次第。審査員を囲む会の席では、紋切り型の持ち達しいご挨拶が終わると、やっと乾杯の音頭が弾む。キレイどころの仲居さん達が、待望のお純子ビール運び配って行き交う、やっとな酒宴のオープンである。故蒲池正夫館長先生まで十八番の、「オチモヤン……」が余興でと

び出して来て、パーティもクライマックスとなり、酔った果てはいつしか秋の夜も更けて、解散と相成る次第でした。

その翌朝、私は徳島公園近くを自転車走っていた。私は公園へ向かって歩いておられた昨夜の審査員田川勳次先生とバツリお逢いしたのです。「先生どこへいらっしゃるのですか」と私が話しかけた。「一寸スケッチでもしようかと思ってネ、だけど良いところでお逢いした、もうスケッチは中止、今田さん飲み直した」遂に田川氏と私は意気投合、もう飲んべえ同志の朝酒という事になってしまった。田川先生は故蒲池館長先生を褒めちぎった末、もう一度お話がしたいと来た。未だ時間が早過ぎる、時計の針は10時を一寸過ぎた頃であった。飲み屋が開いているだろうかと捜した。すぐ近くのM店があいていた。暖簾をくぐって田川先生を座敷へ案内して暫時お待ち頂くことにした。そして私は公園の県立図書館へ走り、「館長どうぞ」と私の自転車の荷台に先生をお乗せして、輪タクよろしくM店へ急行、懇親会の二次会を、その日の夕方までやってのけたのです。そのM店が現在はビルに生まれ変わり、昔の面影は無いが、今も同じように繁盛して営業している。また田川勳次画伯も健在だということです。今は亡き故蒲池正夫先生の御冥福を祈りながらペンを置きます。 56年11月記

各部記録

日本画部

部会長 後藤春潮

年間展望

◎ 第36回 県美術展 (11/7~11/15 郷土文化会館)

審査は画会で活躍の坂口麻沙子先生をお迎えして行われた。まず審査を終えられた先生は思いのほか色彩が豊富で明るい展覧会だと評され、ローカルの陰うつなものがなく、作品が底抜けに明るい気がされたそうである。ただ欲を言えば、少し小さくまとまりすぎている作品が目についたのが、おしまれるので、もう少し大胆に体で描くようにしてもらえば自然に画面の伸びが出てくるのではないかとの総評であった。

入賞作品では近代的なセンスと若さと活力ある感覚の絵を選ばれた。

特選の近藤百合子「映(はえる)」は技術的にも絵具の使い方、デッサン力にも富んでおり、ロマンチックな若さを買われた。西野和男「夏の終りに」も色彩の点で良く、自由に描けているところを取られ今後を期待された。土井洋子「華」は日本画の持つ特性と感覚を画面に生かした力作であった。準特選の中西芳雄、山本志男も今後が楽しみである。一応これらの入賞作品は、どこに出しても恥ずかしくない作品であることを認められた。今後続いて若い世代の進出と活躍を大いに期待したいものである。

審査対象・搬入点数83点(昨年比12点増) 入選50点(昨年比7点増) 入選率60%

◎ 第22回 博美展 (5/20~5/24 博物館)

今回展は昨年にくらべて、出品数が6点の増加を見た。作品のレベルも毎年のように向上の跡が見られ、よろこばしい限りである。(博美賞)の佐々木文子「E子」はデッサン力も良く構成、構図ともに整った良い作品であったが、もう一つバックの処理に工夫が欲しかった。(優秀賞)後藤田実、橋本敦美はそれぞれ優秀作であった。このほか賞にもれた作品で吉坂美智子ほかる点も努力作であり、あと一步の精進を期待したいものである。

応募出品数57点 入選27点 入選率73%

◎ 第37回 新作日本画展 (7/10~7/12 郷土文化会館)

秋の県展に向けての試作展とも言える発表の場として毎年この新作展を開いて来たが、今回で37回目を迎えた部会独自の定期展である。開催に当っては出品者はもとより役員各位の献身的なご努力によって盛會に開催が出来たことを感謝するとともに今後本展がますます充実し発展するようご協力をお願いしたい。恒例によって出品数144点の内審査対象120点を役員投票により優秀作品を選び今後の飛躍に資してもらおう意味から次の10点の作品を披露させてもらった。

(新作大賞) 赤井 正雄

(新作賞) 永井 佳奈・原田喜佐子・吉坂美智子・山本 志生

(佳作賞) 木村 彩雲・森見 喜美・葉折 幸子・土肥 米吉・滝口 信一

◎ その他部会員の活躍では、中央展並びにグループ展等、本年度も各方面で昨年に勝る多くの成果を挙げた年であり、そのご努力に対し敬意を表し今後ますますのご活躍を期待したいと思います。

<消息>

1月	画展ふるさと	郷土文化会館	矢野・篠原・森・高田・長谷
"	(十二文) 西展	鳴門四電ギャラリー	村上・高田
3月	第21回日本南画院展	東京・京都・大阪	森(文芸賞)村上(院賞)篠原(特賞)矢野・高田・長谷(各会長賞)佐藤
"	日本墨彩画院展	香川県文化会館	篠原(準文部大臣賞)森・長谷(各特選)矢野・高田
"	文画会(岡山)	香川県文化会館	矢野・高田
"	置県百年阿波百景展	郷土文化会館	会員18名参加出品
"	第10回徳島市文化展	郷土文化会館	日本画部徳島会員全員参加
4月	阿南市美術展	阿南市民会館	篠原・森・長谷ほか会員
"	むや回日本画展	鳴門四電ギャラリー	高田瑞雪ほか塾生出品
5月	第22回博美展	県博物館	後藤・高岡・山内(各審査員)部会委員9名(委嘱出品)
"	ふるさと鳴門展	鳴門市民会館	日本画部鳴門会員全員参加
"	県女流美術小品展	ニチイギャラリー	長尾弘子ほか11名参加
6月	小松島市美術展	小松島市福祉会館	篠原
7月	第37回新作日本画展	郷土文化会館	日本画部会員並びに公募作品
"	鳴門日本画協会展	鳴門四電ギャラリー	日本画部鳴門会員全員参加
"	日本南画院役員選任		村上凌雪・篠原三穂理事に推挙 高田瑞雪無鑑査評議員に推挙
8月	絵で見る徳島展	郷土文化会館	矢野・篠原・森・高田・長谷
"	中央展出品者展	郷土文化会館	篠原・森・長谷・佐藤・矢野・高田・村上
"	国際水墨画研究展	京都市立勸業会館	篠原・森・長谷・佐藤
9月	有秋会日本画展	大阪市美術館	篠原・森・長谷・佐藤
"	第52回県女流美術展	郷土文化会館	長尾弘子ほか11名出品(創立30年記念展)
"	仙合徳島女流美術展	"	"
10月	第34回鳴門市展	鳴門市民会館	鳴門日本画会会員全員参加
"	日本墨彩画院小品展	池田町教育センター	矢野・篠原・森・高田・長谷
"	青峰美術展	兵庫県民会館	高田瑞雪(奨励賞)矢野・篠原・森
"	第10回日展	東京都美術館	橋本正弘(入選)

11月	阿南市文化祭美術展	阿南市民会館	篠原・森・長谷
〃	小松島市美術展	小松島市福祉会館	篠原
〃	那賀川町文化美術展	那賀川町民センター	篠原
〃	17回春潮社日本画展	つばみやデパート	後藤春潮ほか塾生出品
12月	喜寿記念個展	徳島四電センター	矢野秋溪
〃	珀雲社日本画展	郷土文化会館	篠原・森・長谷ほか会員参加

洋 画 部

部 会 長 平 沢 い さ む

年 間 展 望

- ◎ 県展今年の審査員は二科会の理事長、吉井淳二画伯、さすがに多年多くの作品を見られておられるだけあって、適格な審査であった。審査終了後、批評を受ける時間を設けてあるが、毎年批評を受ける人は割合少ない。折角のよい機会だから、進んで自分の作品をお見せして批評を受けることは、大へん有益だと思う。
- ◎ 今年は置県百年、記念事業の一環として開催された、阿波百景展は、テーマが限られており、いろいろの批判もあったが、県内、県出身の画人の作品を網羅し、展示したことは、一応有意義な企画であった。
- ◎ 県郷土文化会館も今年で開館七週年になる。展示場の照明その他の設備も大分古びてきた。新しい美術館建設の企画も進んでいるようだが、郷土文化会館は市の中心部に位置し貸画廊としての役割りは、今後共大きい。内装の改善が望まれる。
- ◎ 郷文の企画で開催された、「マチスとその周辺展」は、世界の巨匠の名作を鑑賞する機会の少ない本県としては、大変有意義な企画展であった。
- ◎ 県教委、芸術祭執行委員会、徳新が主催する県芸術祭の行事も今年で15回を数える。
本年度洋画部門の受賞者。
優秀賞(藤川 明子、石原 弘)
新人賞(大西 道夫、金丸 昌弘、篠原佳代子)
(他にも優秀な発表もあったが、過去に一度賞を受けた者は、同種類の賞を重複して授与しなかった。)
芸術祭の行われる4か月間以外の期間にも優れたグループ展、個展が開かれているが、これらは除外されている。実施上難点はあると思うが今後の課題だ。
- 第36回 県美術展 11/7~15 郷文
搬入数 240点、入選 79点、入選率 32.9%
特別出品 4点 招待出品 9点 賛助出品 20点
特 選 (齊藤 増子、岡本 征二、藤川 明子、西川 周三)
準特選 (福野 稔、服部 裕、正方久美子、真野 孝彦、吉永 房子)
- 第22回 博美展 5/27~30 博物館
搬入数 83点、入選 49点、入選率 55.4%
委嘱特別出品 16点
博美賞(藤川 明子)
優秀賞(四宮 久子、吉永 房子、真野 孝彦)
- 第11回 徳島県教職員美術展 2/6~8 郷文

・第8回 徳島市文化展	3/11~16	郷文
・阿波百景展	3/4~8	郷文
・東大寺納経展	4/4~12	郷文
・第10回 県出身美術家展	4/8~12	建設会館
・パロン薩摩の仏日本館修復資金チャリティ ー絵画展	5/8~10	建設会館
・マチスとその周辺展	6/6~28	郷文
・第34回 示現会巡回展	6/17~22	郷文
・第10回 中央展出品絵画展	8/2~16	郷文

(行事)

- ・美協洋画部講習会 6/7 青少年センター、市中央公民館
 今年は、青少年センターの二室、市中央公民館の一室でコスチューム、静物の実技実習を行った。
 参加人員74名で盛会であった。

(グループ展)

・ふるさとを描き追す会展	1/15~18	郷文
・示現会徳島支部展	1/17~19	四電
・新紀会グループ展	1/21~25	眉峰
・サムホール展	1/6~10	眉峰
・徳大美術部卒業展	1/30~2/1	郷文
・第3回 試展	3/18~24	郷文
・徳大卒業制作展	3/19~23	郷文
・虹の絵画グループ展	3/28~30	四電
・深沢幸雄銅板画展	4/2~12	眉峰
・第5回 新屋会展	4/17~19	郷文
・第3回 ぜろ展	5/1~5	眉峰
・第4回 八紅展	5/28~31	郷文
・とくしま美術グループ小品展	6/5~8	郷文
・第2回 徳島青年美術展	6/13~14	郷文
・グループ求展	6/13~16	四電
・第39回 世代美術展	6/26~29	郷文
・阿波踊り油画展	7/9~17	UZU塾
・第2回 バージット展	7/10~13	郷文
・第5回 全日本美術協会徳島支部展	7/12~15	郷文
・二回生展	7/14~16	郷文
・あすなろグループ展	7/17~20	郷文
・四国まんだら展	7/27~8/6	UZU塾

• 絵で見る徳島展	8/2~16	郷文
• 第5回 キッスングオー美術展	8/5~9	眉峰
• パリーローマの旅洋画三人展	8/24~26	鳴門四電
• アートランドーム展	8/27~31	眉峰
• 第6回 あわ洋画ぐるうお展	9/1~4	四電
• 第24回 とくしま美術グループ展	9/3~6	郷文
• 第3回 鴨島洋画グループ展	9/14~17	郷文
• 第52回 県女流美術展	9/15~18	郷文
• 第14回 日本水彩支部展	9/18~21	四電
• 第15回 モダンアート協会支部展	9/19~23	眉峰
• 第13回 石井美術の会作品展	9/23~25	四電
• 第36回 肖美展	9/25~27	郷文
• 第9回 「む」アート展	9/26~29	四電
• 第3回 美術文化四国支部展	10/7~10	郷文
• 第2回 東光会支部展	10/8~11	郷文
• 旺玄会支部展	10/9~13	郷文
• 第3回 小松島美術展	10/31~11/3	小松島福祉会館
• 白鳳洋画グループ展	10/1~8	鳴門四電
• 第4回 ひぼーぐるうお展	11/26~30	眉峰
• 昭和美術会支部創立展	11/28~30	四電
• 第4回 飛鶴展	12/23~26	四電
• 第34回 ベニウズ展	12/26~29	鳴門四電

(個展)

• 元木昭治ドローイング展	1/3~9	翠峰
• 名西高OB展	1/5~11	眉峰
• 島あふひ洋画展	1/11~18	郷文
• 麻田浩新作展	1/16~21	翠峰
• 藤本富夫油画個展	3/20~25	丸新
• 濱崎知代子油画展	3/26~30	眉峰
• 山下清展	4/3~8	丸新
• 平田ゆたか油画展	4/21~30	UZU珈
• 叶せいいち個展	5/8~11	郷文
• 鉄谷鼓洋画個展	5/29~6/3	丸新
• 今田史男個展	6/12~14	郷文
• 細川政広洋画個展	6/12~14	郷文
• 宮本裕之水彩画展	6/17~19	四電
• 岡本省吾銅板画展	6/24~30	眉峰

・第6回 ふじいあさ個展	7/3~8	郷文
・吹田文明木板画新作展	7/18~22	丸新
・田島征三版画展	7/25~31	眉峰
・藤本富夫阿波踊りとフランス風景画展	8/11~16	眉峰
・濱崎知代子油画展	8/7~14	UZU珈
・笠松方成水彩画展	8/7~21	四電
・今田史男、後藤田仁一、二人展	8/19~23	眉峰
・鈴木山映洋画展	8/23~31	UZU珈
・斉藤カオル展	9/11~13	四電
・青木和子個展	9/11~13	四電
・内藤祥資洋画展	9/13~16	郷文
・第1回 金丸昌弘油画個展	11/1~3	眉峰
・第1回 河野宗之蒸油画個展	11/19~23	眉峰
・中川隆史、三沢尚子水彩二人展	11/21~29	鳴門四電
・第3回 浅田二郎油画作品展	12/3~9	郷文
・第9回 宮佐千秋、由紀二人展	12/12~14	四電
・第5回 清水益徳個展	12/18~22	郷文
・仁字鏡子テンペラと水彩画展	12/23~31	UZU珈

(会員、個人消息)

四宮 久子	二紀会入選 神戸二紀会入選 (兵庫県教育委員会賞)	川原 康孝	全展入選
四宮奈美枝	二紀会入選 神戸二紀会入選	藤川 明子	全展入選 県芸術祭優秀賞
岡本 征二	二紀会入選 神戸二紀会入選	林 信夫	全展入選
佐野比呂志	全展出品 全展関西展山品 (兵庫県教育委員会賞)	中川 隆史	関西水彩展出品
岡田 守	全展出品 全展関西展出品 (静岡堂賞)	津地 威汎	国展出品
柏木 雅雄	全展出品 全展関西展出品	武市啓次郎	形象派美術協会展出品 会友推荐
立岩 巖	全展出品 全展関西展出品	河野 太郎	東光会出品
		浅田 二郎	東光会出品
		青山 盛雄	東光会出品
		今田 史男	美術文化展出品 ホルベイン賞
		後藤田仁一	美術文化展入選 読売テレビ賞

山口 和子	全展出品 全展関西展出品	永山 隆二	美術文化展入選 関西美術文化入選
中村 晴代	全展出品 全展関西展出品	富野 徳	旺玄会出品
清水 亜憐	モダンアート出品	浜口 恵	モダンアート出品
河田 安市	白日会出品 白日会選抜展出品	松川 實	モダンアート出品
黒崎 志郎	示現会出品 日展入選	鎌田 富則	モダンアート出品
岡久 薫	示現会出品	多田 宵叙	一水会入選 会員推挙
岡 多実子	新象美術展出品 仏サロン・ドートンヌ展 入選	松尾 彰滋	白日会入選 古川賞
露口 敏幸	自由美術入選	黄田 博司	示現会出品
大神 良代	自由美術入選	島村 英之	示理会入選
板東 俊一	大潮会入選		

- 岡多実子さんのサロン・ドートンヌ入選はヒット、サロン・ドートンヌはパリーで古くから伝統ある国際美術展、岡さんの作品は、審査員の間にも大へん好評で、作品は、会に永久保有されるとのこと。

写 真 部

部 会 長 西 條 征 二

年 間 展 望

第36回展の審査は前年に引続き、大阪芸大教授の岩宮武二氏にお願いした。第36回展は第35回展がやや低調であると指摘されたに対し、非常に高水準であるとの総合的な評を得た。永年写真部の発展向上を願って努力している我々にとって、まことにうれしい思いがしたわけであった。

出品者数141名で出品点数は組写真、カラーを含めて536点で22点の増加。入選点数は134点でその入選率は25%となり、近年の厳しさの中でも最たるものとなった。従ってまことに見ごたえのある粒ぞろいの入選作品ばかりの展となった。

入賞者の顔ぶれは中堅作家と目される人が期待どおりの活躍をした。橋本圭祐、森賢一君が三年続いての入賞で将来の無鑑査作家の有力候補となり、林敏彦、井藤光章、古井謙吉、山本徳仁、逢城登君らが連続入賞している。またベテラスの関口務、納田康雄君らの入賞も大いに気を吐いたものと言えよう。美協初入会、初出品で特選、入選と両手に花の中野健吉君、最多入選と特選の前浦芳久君らに期待することも大である。

入賞作品をつぶさに見ると、全体的に新しい写真の方向を示唆しているかに感じられる。会員諸兄の感じ方は如何であろう。昨年から発行している「県美術展写真録」は非常に、参考になると思われる。活用をお願いしたい。例年ながらカラー作品はふるわなかった。これについて、まれに審査員を言々する人がいるように聞くが、こんにち中央展のカラー作品は想像よりはるかに進んでいると思って間違いない。カラーラボの不勉強もさることながら、まず自分の目を開くことが肝要であろう。

博美展は博美賞に林敏彦君が二年連続選ばれたことは特筆に価しよう。会員の所属するクラブ展は、炎展、写楽展、リアリズム写真集団の平和展などが開かれているが全般に低調であった。

個人的には藤井梵君が全日本写真連盟関西支部展で特選を得た。なお同君が57年春に写真集「俱会一処」を出版する。期待されるところであり購読をおすすめする。また永年県展に出品を続けている城尾静子氏が56年9月写真集「ふれあい」を出版した。

彫 塑 部

部 会 長 河 崎 良 行

年 間 展 望

第36回県展の審査は、抽象系作家の年にあたり、新制作の土谷武先生にお願いした。遠路はるばる審査に来てもらって、それに値する作品がどれだけ出品されるか、いつもながら気をもむところであった。

審査評としては、「いろいろな傾向の作品があるし、技術的にもしっかりしたものが多い。」とのことで一応は胸をなでおろした。毎年のことであるが、特選クラスの作品はレベルが高く、どこに出してもはずかしくない作品であると高く評価されてきた。今年の土谷審査員も同じ感想であった。だが、それに続く作品が少なく、上下の差の大きいのが、近年の傾向である。

また、「風土に根づいた作品がもっとあっていいのではないか。」という指摘があった。東京で住む作家は、何かその地方独特のものがありはしないかと期待して海を渡ってくるようである。80年代は「地方の時代」といわれて久しい。これは、中央集権的なものからそれぞれ地方色のある多様化への変化を意味するものであろう。確かに、県展は地方のものだから地方色豊かなものがもっと多くあってもいいだろうとは考える。しかし、伝統工芸のような領域であればどの地方においても、それぞれ特色あるものを見出すことができるが、現代彫塑において、地方に産する素材を用いるとか、その発想源を地方独特な風土に根ざしたものとすると、そう簡単に生み出されるものではない。むつかしい問題ではあるが、県展の在り方を考えるためには、今後検討しなければならない課題の一つであろう。

彫塑部会の主な活動としては、昨年より設けた彫塑公開講座をあげることができる。この講座の目的は、彫塑分野の振興策の一つであるが、制作者のみを対象としたものではなく、広く一般の人々も対象として、彫塑文化に関心を深めるためのものである。今年は、昨年度の現代彫塑の鑑賞会に引きつづき、デッサンの実技講習会を開催した。10回にわたっての人物デッサンは、参加者も多くまずまずの成果をあげることができたのではないと思われる。今後は、彫塑実技の公開講座を検討中である。

その他の活動としては、彫塑部会の多くのメンバーが参加している徳島彫刻集団の活動があげられよう。5月に例年のように徳島公園で野外彫刻展が開催され、多くの力作が展示された。

<個人消息>

井下 俊作	個 展	県郷土文化会館
	行動展出品	東京都美術館
大津 文昭	二紀展出品	"
鎌田 邦宏	二紀展出品	"

河崎 良行	二紀展出品 二紀会員展出品	東京都美術館 東京セントラル美術館
沢井 良明	第一美術展入選、銅賞受賞	東京都美術館
浜口 恵	モダンアート展出品 (版画)	"
坂東 文夫	坂東文夫作品集刊行 個展 二紀展出品	県郷土文化会館 東京都美術館
松永 勉	行動展出品	"

美術工芸部

部会長 釜 床 誠 一

年間展望

第36回県展は、東京芸術大学教授 田村耕一氏を第29回について 再度お迎えして審査が行われた。

出品数は79点で昨年の92点よりは減少したが染色・織り物等に大作が多く全体的には、実のある質の高い作品が集まっていた。

審査評については、今回の上位入賞作品の中でも、藍染めが印象深かった。特選作では、新居文子氏の「吉野川」がデザインの発想、色合いともよかった。特選 橋恵氏の「春潮」は技法がきれいで、雰囲気の良い出来ばえだった。同じく特選の松館善行氏の「燭し壺」は、難かしい口の処理がうまかった。

単特選作については、橋本嘉広氏の「木葉天目皿」は木の葉模様の散らしがうまく出たケースである。岡山ゆず実氏の「スクリーン」は、大胆にももの組み合わせを試みている。なお糸に変化をつけると単調でない美しさが出たであろう。

なお今後のアドバイスとしては、工芸とは、広い分野だが、材料をよく生かし、装飾性を考えねばならない。徳島県の場合、藍に対して、いい材料、いい色を出す方法、名人芸の指導、完成されたもの等がそろっており、今後其他の土地では出来ない力が発揮できるのではないか。

また工芸は、自分の気持ちを表現できれば十分なのでなく、他の人から見てもある程度関心を持たねばならない。そして「ものを作る」ということは、自分の成長を願い、育てることと言える。ただ作っているだけでなく、年間を通じて一点ぐらいはいい作品を生み出すことが大切であると言われた。

例年のように審査終了後、指導をいただく場、会食を設定したが、多数の出品者、特に若い出品者がたくさん参加し意欲的に時間を忘れ指導を受けていた姿は誠にたのもしく、今後の工芸部の発展に大きな力となるであろう。

展示については、毎年のことではあるが、出品数の増加と大作が多くなり、限られた会場との関係でやや狭苦しい感じになった。

中央展、グループ展、個展等も多数の会員が力作を出品入賞し、多大の成果をあげている。特に本年は森浩氏が作陶30周年 記念展を徳島リバーシティジャスコで開催し、やわらかい金色の開発に成功した「ぐいのみ」「さかずき」の発表展を、また「花と土と」を丸新で個展、芸術祭参加優秀賞を受賞した。

また新居猛氏は、新居猛創作椅子展を丸新文化ホールで開催、氏の20年間の創作椅子の歴史、成果を発表した。

<個人消息>

多智花佐代子	1月	多智花佐代子織作品展個展	丸新百貨店
"	2月	第二回今日の染色造形展出品	京都じゅらく資料館
"	3月	日本現代工芸美術展入選	東京都美術館
"	5月	現代の染色・20人展出品	京都じゅらく資料館
"	5月	インターナショナルアメリカ国際展入選	ロスアンゼルスメインアート
九十九健二	5月	第一美術展入選	東京都美術館
矢野 欽一	5月	中日国際陶芸展入選	東京都美術館
森 昌男	6月	藍染グループ展出品	四国電力ギャラリー
橋 恵	7月	新人染織展入選	東京都美術館
新居 猛	7月	新居猛創作椅子展個展	丸新文化ホール
松下 雄介	9月	第28回日本伝統工芸展入選	東京三越
森 浩	11月	日本民芸公募展入選	日本工芸館
矢野 欽一	11月	新匠工芸会展会員出品	京都美術館
松下 雄介	11月	" 会友 "	"
松下 慶一	11月	" "	"
森 浩	11月	作陶30周年記念展個展	徳島リバーシティジャスコ
松下 雄介	12月	第三文明展入賞	東京都美術館
松下 慶一	12月	" 入選	"
森 浩	12月	花と土と 芸術祭参加優秀賞受賞	丸新百貨店

書 道 部

部 会 長 田 中 双 鶴

年 間 展 望

県内において開かれた書道展の主なものは、春の博美展、秋の県展、それに県芸術祭参加の16種の社中展で、各々何れも最善を尽して華やかに開催された。又中央展、県外展においても審査員として活躍した人や優秀作を応募して入賞入選した人々の数も夥しく、今年の書道人の奮闘は目ざましいものがあった。

◎第22回 博美展 (書道 5/20~24)

出品点数は昨年より42点増加し、294点に及び、限られた展示壁面の為、入選数は141点という厳選であった。作品の質は次第に向上し、見ごたえのある作品も多かった。

(博美賞) 佐原 武子

(優秀賞) 小堀 真利、豊田佳代子、犬伏 礼子、福永久美子、佐藤真治郎、早沢 幸子
田中 竜子、大松 静子、杉本 知代、森岡 美紀

◎第36回 県美術展 (11/7~15)

出品点数は昨年を120点上廻り、853点となり、書の底辺の広さを示した。入選数319点、入選率37%という厳しさとなった。その中から特選10点、準特選16点が選ばれた。作品は昨年同様幅50cmのため形式上類型化は壁面の都合上止むを得なかった。今年の作品傾向は質の向上と著しい新人の進出が特長であった。

。(審査員)

荒井 天鶴、田中 双鶴、田中 栢翠、富永 眉峰、西岡 楚峰

。(特選)

(漢字) 上田 溪水、大松 華城

(仮名) 中尾 勝子、竹田 和代、山中 真紀、藤若 美風、加藤 芳仙、岡島 順子

(近代詩文) 坂本 得風

(前衛) 森岡 美翠

。(準特選)

(漢字) 岡田 華苑、武市 鳴雲、佐藤 真堂、島田 小園

(仮名) 大石加代子、富久 和代、鈴木 郁子、下村 清子、松本 清香、高島 瑞峰
谷口 汀鶴、大松 静子

(近代詩文) 多田 清芳、荒井 彭仙、浜 佳香

(前衛) 竹内 溪邑

◎第15回 県芸術祭 (9月~12月)

。書道の参加行事は16種あり何れも華々しく開催された。

- 第16回 済潮会書作展 (9/5~7)
- 第26回 書協人展 (9/11~13)
- 第11回 直心会書展 (9/11~13)
- 第4回 泉心会書作展 (9/19~23)
- 第28回 徳島書芸院展 (9/19~23)
- 第10回 徳島雪心会書作展 (9/20~23)
- 第5回 大日本書芸院徳島連合展 (9/25~27)
- 第7回 克展 (10/23~25)
- 第11回 光輪社書作展 (10/24~25)
- 硬筆クラブ重硬筆展 (11/2~9)
- 徳島大学書道部展 (11/16~17)
- 書研社展 (11/28~29)
- 徳島かな書道研究会第6回書道展 (12/4~7)
- 硬筆書道展 (12/5~6)
- 第2回 臨池書展 (12/11~13)
- 四国女子大学20周年記念書道展 (12/11~13)

◎昭和56年度県芸術祭優秀賞

寺内 喜峰、宇山 春鶴、長江 頌石、長原 卓鶴、宇野 玉峰、富久 鳴泉

<個人消息>

◎中央展において審査員として活躍し、審査員作品を発表した人々

- ◎第22回 太玄書展 (1月) 田中 双鶴、春藤 大耿、田村 昇鶴
- ◎第17回 創玄展 (2月) 荒井 天鶴、久保 幽香、成尾 荘秀、三木田栢鶴
- ◎日本書道学院展 (3月) 勝瀬 景流
- ◎第17回 関西現代書展 (6月) (第一部) 荒井 天鶴、久保 幽香
(第二部) 三木田栢鶴、大松 碩城
- ◎全日本ペン書道展 勝瀬 景流
- ◎第3回 東京書作展 (東京新聞) (11月) 田中 双鶴
- ◎済潮書道会展 (11月) 高原 清泉、西 南竜
- ◎第31回 日本書道教育学会展 (11月) 田中 双鶴

◎中央展に役員として作品を発表した人々

- ◎第22回 太玄書展 (1月) 中谷 史子、近藤 静苑
- ◎新春かな20人展 (1月) 勝瀬 景流
- ◎万葉百首展 (2月) 勝瀬 景流
- ◎日本の書展 (2月) 勝瀬 景流
- ◎六曲屏風展 (2月) 勝瀬 景流
- ◎壺星展 (3月) 田中 栢翠、前川 古舟
- ◎第10回記念東玄海外展 (4月) 久保 幽香他67名
- ◎日本書芸院展 (4月) 勝瀬 景流

- 青潮書道会選抜展（5月） 富永 眉峰、高原 清泉、西 南竜
- 第33回毎日現代書展（7月）
 - （審査会員） 荒井 天鶴、田中 栢翠、久保 幽香
 - （会 員） 三木田栢鶴、成尾 荘秀、長原 卓鶴、岸 潮風、芝原 醒鶴、荒井 彭仙
- 日本の女流展（8月） 久保 幽香
- 日本書道美術館秋季選抜展（10月） 勝瀬 景流
- 書道芸術院秋季選抜展（10月） 西岡 楚峰
- 第7回 創玄現代書展（11月） 久保 幽香

◎中央展に入賞または入選した人々

- 第22回太玄書展（1月）
 - （太玄賞） 松田 友栄
 - （特別賞） 笹尾 芳石
 - （奨励賞） 中尾 勝子
 - （会員新人賞） 岡島 順子、清水 嘉子、南 溪石
 - （特 選） 宮田 美鶴、中西 甫子
 - （佳作） 野上いづみ、佐木川寿美、中野 芳泉、清村 宗子、楠本比呂美、大塚 秀峰
佐藤 公代、飯領田久江、近藤 聖邨、藤井 春琴、菱崎 奈美、春藤えり子
大南 りか、古山 久子
- 第17回 創玄展（2月）
 - （1科秀逸） 浜 佳香、佐原 和清
 - （準2科賞） 山口 文子、蕨内扶左子、藤田 弥生、野田 洋子、青柳 隨風
- 青潮書道会展（5月）
 - （1科毎日賞） 島田 小園
 - （“ 特 選） 岡田 華苑、三間 好鷺、吉野 美泉、長染 優香
 - （2科特選） 西岡 美鳳
- 第17回 関西現代書展（6月）
 - （3部審大賞） 中山 青葉
- 第33回 毎日現代書展（7月）
 - （秀作賞） 佐原 和清
 - （入 選） 浜 佳香、坂本 霄風、春川 青超、多田 清芳、永松 春苑
野村 英僊、岩本 雅三、久米 聰香、森岡 禎幽、日開 卓扇
藤田 弥山、喜多村成蹊、永峰 郁子、大島 溪石、大松 碩城
粟田 白蓉、前川 古舟、日下 溪翠、林 桂翠、原田 霄月
渡辺 翠邑、出淵 翠石、森岡 美翠、河口 泉翠、瀬部 楊翠
住友 松風
- 第13回 日展（11月）
 - （入選） 久保 幽香、勝瀬 景流

商業美術部

部会長 宗 定 盛 男

年間展望

☆第22回 博美展

受賞作品は別として全般に同じぐらいの力量の作品がひしめいた。ために入、落の線が微妙であった。優れた作品の中にどこかの作家の作風に似ているものもあったが、それはそれなりに悪くはないとしても、もう一步踏みこんだ試みがほしいと思う。

本県は地理的に言って、他の作品群に接する機会も少なく、従って刺激も少ないわけだが、特色のある独特の作品も生れる可能性もあるわけで、その方向への試みもなされてよいのではなかろうかと思う。今回展は質、量とも前回展より上回っ入って出品者の意欲がうかがわれた。

応募点数48点 入選点数25点 <博美賞1点 優秀賞2点を含む>

☆第36回 県美術展

今回の審査は、デザイナーの山城隆一氏<コミュニケーション アーツR>にお願いした。氏は数多くの審査を手掛けられているせいか実に手ぎわよく行われた。審査評に、地方レベルとしては「まあまあ」とあったように全般的で意気込んでいるわりに刮目するような作品が少なかったように思う。

受賞作品は、選ばれるべくして選ばれたものであろう。応募作品の中でも数少ない優れたものであり、又上位にランクされた若干の作品もすばらしく、ともに全国的水準のいい位置にあるのではなかろうか。

尚作品の展示については壁面の位置替え、一部廊下へ飾りつけるなど工夫がなされ、全体がゆとりをもって見やすくしていたように思う。

応募点数77点 入選47点 <特選3点 準特選2点を含む>

<主な消息>

第19回 徳島ADGグラフィック・デザイン展 10/7~11 徳島郷土文化会館

会 員 名 簿

美術家協会の会員制度 (44年度から実施 一部49年度改正)

- ◎ 正会員になるためには、各部委員会の推薦による承認が必要です。
- ◎ 正会員は次のいずれかの部に属するものとします。
①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫塑 ⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦商業美術
- ◎ 正会員は、会費年額3,000円（うち1,500円は部会費）を定められた日までに納入して下さい。
- ◎ 新しく正会員になる場合は、入会金として1,000円納入して下さい。
- ◎ 定められた日までに、会費未納のときは退会とみなします。
- ◎ 正会員は県美術展への出品、展覧会、講習会の案内等で、恩典を得ることが出来ます。

日本國部 (45名)

徳島市

天羽 成芳(春風)
 生田 申枝
 荻野 行夫
 後藤 春樹
 齋藤 登
 佐藤美久恵(蘭舟)
 高岡 徳夫(何有)
 田村 雅世
 長尾 弘子
 日浦 登史
 土方 喜美子
 松崎 安野(白帆)
 三好 秀雄
 森本 善正(葉)
 山内 春鏡人
 横山 貴子
 吉板 美智子
 吉崎 進

鳴門市

上原 圭子
 高田 美苗(瑞雪)
 田淵 増夫(冬樹)
 約島 彌雄(冬樹)
 村上 重雄(凌雪)
 矢野 昇(秋風)

阿南市

橋本 正弘
 長谷 壽
 森 茂苑

那賀郡

今川 勝重(一水)
 小笠原登雄(白芳)

藤原 正義(三歳)

海部郡

片岡 良治(松風)

名西郡

土井 洋子

中川 健

前川 富子

板野郡

東 信子

金子 綾子

木内 トシ

近藤 日出子

森下 芳雄

森本 収子

麻植郡

森内 明子

美馬郡

堀本 和行

三好郡

坂本 武子

洋國部 (69名)

徳島市

天野 節
 伊勢 圭治
 今田 史男
 大神 良代

多美子
 邦 義守
 田 雅雄
 田 水野 大官
 柏 野 田 馬 藤 崎
 河 錄 崎 崎 崎
 後 藤 田 志 仁
 齊 藤 木 野 宮 水
 佐 佐 四 崎
 鈴木 高 多 津
 口 敏 正
 中 川 村 尾 山 部
 長 永 泰 服
 林 平 福 藤 山 積
 信 夫
 沢 いさ 守 子
 福 本 川 明 和 子
 山 口 井 和 子

鳴門市

青 山 盛 雄
 湯 水 本 三

阿 南 市
 大 宮 和 雄
 岡 久 茂
 勝 浦 郡
 福 野 郡
 阿 波 郡
 井 後 郡
 那 賀 郡
 島 村 美 之
 住 友 義 彦
 弓 長 山 明
 海 部 郡
 耕 田 郡
 名 西 郡
 武 市 喜 次 郎
 立 岩 藤 德
 宮 野 亮 治
 前 野 亮 寛
 松 川 寛
 板 野 郡
 板 東 俊 一
 麻 植 郡
 阿 郡 勝 則
 岡 本 征 二
 黄 田 博 司
 松 尾 影 滋
 真 野 孝 彦
 森 俊 嗣
 美 馬 郡
 浅 田 二 郎
 河 田 安 市
 堀 山 邦 子

三 野 郎

片岡光子
金岡義和
川原康孝
平尾美智子
山口美千代
山下治平

縣 外

佐藤省三郎
長井公雄

佐治孝
佐治利弘
佐原元
清水良亮
杉本高福
関口務
関口二郎
高田為一

武内亨
多田晴美
多留敏男
床波新一
富永仁典
中川定典

越波巖勝
新野見高幸
樋口博美
弘田才之
野木信治
堀本実久
前浦芳久

前浦正広
前板文次
増田清壽
増田雨城
万福寺和好
三好高士
官森賢一
安長一
山藤尚
吉田聖介

埼 門 市

生田男
今出男
弘

写 真 部 (109名)

徳 島 市

荒井賢治
井藤光章
井上光雄
乾孝康
上野照文
榎本悠
逢坂登
岡崎茂春
勝西雅夫
喜多村久幸
榎川久義
榎川米藏
久米正雄
小池良洋
小森松久

尾崎 孝 幸
尾崎 利 男

川上 大 上
菊池 純 一郎
郎 寛

西条 征 二
多田 照 宏
田中 昭 男
中村 敏 雄
納本 康 雄
橋本 圭 祐
丸電 智 久
宮本 哲 雄
山下 勝 正
山本 政 登
山本 一 雄
湯本 生

小松島市

野口 佳 一
和田 俊 彦

阿南市

大田 徳 三
岡 敬

折野 理 悦
木田 実 之
笹田 敏 雄
田上 多 四郎
伊達 隆 子
田村 泰 弘
林 敏 彦
福田 義 勉
水口 義 行
森崎 孝 賢
吉賀 賢 彦
米 賀 子

勝浦郡

光井 照 己

縣 賀 郡

後川 理
梅本 貞 雄

大西 健 一
中野 建 吉
三木 晴 夫

海 郡 郡

本 田 隆 敏

名 西 郡

酒井 博 司

志摩 時 次

阿 波 郡

須見 信 男
西川 忠 祐

飯 野 郡

大野 武 朗
神野

竹西 仕 一郎
林 治 郎
吉井 謙 吉

宮 本 敏

森本 新次郎
山本 徳 仁

麻 植 郡

佐野 辰 夫
長谷 谷 逸
藤井 梵
和 田 勇

美馬郡
十川富義
三好郡
鈴木秀次

麻植郡
谷村薫子

美術工藝部 (30名)

彫 塑 部 (17名)

徳島市
藤田邦宏
河崎良行
佐藤隆
浜口 恵
林 一 美
吉田尚行
小松島市
沢井良昭
額部瑞城
阿南市
大津文昭
神例悦二郎
渡辺俊二
勝浦郡
山上正一
那賀郡
井下俊作
海部郡
栗田 治
名西郡
宮本幸江
板野郡
松島信保

徳島市
新井増彦
永田川徳昭
香川文学
七条 猪三郎
島 孝 雄
高 穂 男
多智花 佐代子
九十九健二 (秀峰)
新居 藍
平野 仁太郎
福井 幹之
村上正典
森 昌 男
山上 啓

鳴門市
田村 功
林 康 郎
橋本 嘉 広
春本三次郎 (梅里)
松下 慶 一
森 治
矢野 敬 一
小松島市
岡田 潔吉 (朝水)

阿南市
村田千秋

名西部
釜床誠一
佐々木教一

飯野郡
北島洋史
橋 惠

松下雄介
三井八郎

麻植郡
藤川貴司

加藤千代子(芳仙)
龜石二三

河原ナヲエ(葉峰)
谷内恵美子

岸 司(海風)
喜多村百(成感)

清村宗子
清久倫世

久保幽香
久米安弥(潮香)

黒田早苗(清園)
児島匡生(尚山)

古郷弘江
後藤慶三(藤芳)

駒田澄子(水沈)

高藤 実(虚白)
坂口貴美子

佐々木龜三郎(翠峰)
佐々木 康 恵

佐藤真治郎(真堂)
讃岐 敏春(潮痕)

佐野 幸子(天城)
植野 博(春翠)

芝原 昭男(照鏡)
清水 藍(桂月)

清水 嘉子
島田 敏江(翠芳)

下村 清子
洲崎 忠雄(忠峰)

隅田 英二
袖 友 登 市

高木はるの(紫月)
高島 正雄(瑞峰)

竹 中 喜代子
田中 正一(桐翠)

書 道 部 (21名)

徳島市
荒井天鶴

荒井 彰子(彭仙)
栗田 博子(白雲)

以西 寛敬(如溪)
伊 東 重子

岩 本 雅 三
上田 盛夫(溪水)

上野登代吉(尚亨)
大松 茂昭(頑誠)

岡田松子(翠苑)
尾 田 麗子

小田 亮一(加風)
彭 山 ヒサ子

櫻 原 孝子
河野 富子(富嶽)

笠 原 小夜子

田中 双鶴
田中 久恵
田村 実(昇鶴)
長瀬 優香
寺内 喜一(喜峰)
宮永三喜男(喜峰)
仲 三千人
中 篤 滋子
中 篤 良江
永松 弘子
中村 雅治(雅堂)
長江 義晴(清幽)
永松 照美(春苑)
成尾 麻雄(狂秀)
仁木 文子(文苑)
西 浦 智 頼
西尾与志子(惠花)
西岡 春男(楚峰)
西岡 詩朗(五峰)
野村 正勝(鳴洋)
長谷矢寿子(美桜)
浜 桂子(佳香)
浜本喜美子(清蓮)
原田惠美子(明月)
原田 和明(和風)
坂 東 智 世
鶴 宮 喜 美
平田 忠幸(南嶺)
藤若 展義(美風)
前川 峰俊(古舟)
松 田 友 栄
松本志津子(清香)
松本 吉孝(深翠)
南 勝雄(溪石)
南 孝 雄
美 馬 幾美江
美 馬 貞 恵

宮井 和断(青雨)
森岡 祐子(筑南)
藤 内 扶左子
山上 初子(建峰)

山 口 喜 久
山 口 文 子
山ノ井智理子(芝香)
山本 敦馬(寛水)
横田 岩夫(染林)
吉岡 実(景鶴)
吉田 有子(史崎)

吉田 益義(栗川)
米 沢 新 二
若木 恭子(翠草)
渡辺 政信(草石)

嶋 門 市
赤沢 和雄(梨軒)
豊崎 恭子(永福)
加島 俊彦(流芳)

近藤 幸(静苑)

佐木川 寿 美
佐 藤 啓 子

高田 博子(江都)
竹内 美子(虹舟)
田 中 昭 男
田 中 芳 子
山口 幸七(桂堂)
宮永康寿子(竹香)
宮久 和代(鳴泉)
中 谷 史 子
中 西 重 子

福永久美子(美泉)
藤倉 健男(龍真)

小松島市

青柳ひでの (陸風)
 青柳 道男 (卓球)
 大平 京子 (京風)
 藤瀬 文雄 (長流)
 川下 四郎 (京風)
 川 又 敏 香
 辻 博己 (柏泉)
 長原 功 (卓球)
 林 敏子 (卓球)
 日開 典子 (卓球)
 藤井 悦子 (国舟)
 船 崎 末 子
 福岡 信子 (琴流)
 宮 本 博 子

阿南市

枝川 扇子 (綾香)
 大下 富江 (江波)
 大 松 久 子
 表 原 輝 実
 小 淵 真 利
 藤 藤 登 子
 高原 正晴 (柏泉)
 田 中 千 恵
 谷口 智子 (汀鶴)
 西 敏晴 (南砲)
 西谷 公子 (香峰)
 遠川 孝恵 (桂女)
 久西 晃 (晃風)

名東郡

奥野 信夫 (雁崎)

勝浦郡

定 作 原 一

那賀郡

川上 進一 (江原)
 島田 秀子 (小園)
 鈴 木 エリ子
 杉 本 千枝子
 多田 朋子 (清芳)
 松 原 良 子
 三間 好子 (好真)
 海 部 郡
 百瀬 和代 (和風)
 竹内 兵二 (才石)
 野村 米子 (美郷)
 春川 登 (青組)

名西郡

海原 進 (鏡風)
 遠 藤 敏 子
 久 米 アサ子
 久米 孝枝 (香風)
 佐原 武子 (和清)
 柴 田 晋 三
 高 橋 尚 子
 田中 昭二 (昭峰)
 中 尾 勝 子
 中野 芳一 (芳泉)
 中山 啓 (静風)
 奈木 邦夫 (雪江)
 能仁佳子 (草味)

阿波郡

市 原 瑞 江
 山 中 真 紀

板野郡

阿部 友一 (天柱)
 大島 清子 (萬石)

大松佳代子 (華城)

大松 静子

加 村 喜美子

川城 輝昭 (藤原)

日下カズ子 (漢翠)

橋 本 比呂美

近藤 明男 (雪塚)

佐藤 一美 (胸月)

春藤 孝雄 (大映)

岡 ひとみ

高 井 友子

中山 忠夫 (寶塚)

新居 邦夫 (藍水)

野 上 いづみ

原口 栄子 (榮香)

渡 崎 奈 美

渡崎 信義 (華藤)

広 島 章 子

三木田文夫 (裕福)

矢野カヨ子 (華泉)

米 沢 和 美

麻 植 郎

市 原 茂 利

大 石 加 代 子

岡 島 順 子

佐藤 正江 (栄香)

武市 敏生 (鸡冠)

竹 田 和 代

新居 豊生 (鹿州)

吉 兼 栄 子

吉 村 敬 子

美 馬 静

大 伏 礼 子

逢坂八十一 (八虎子)

大塚 俊美 (美探)

炭谷 富子 (藤江)

豊田佳代子 (艶香)

長江 達造 (鑽石)

藤井 真澄 (春琴)

藤 川 美 里 子

山本 芳夫 (鳴水)

三 好 都

新居 花秀 (芳翠)

山下 輝二 (翠石)

渡辺 巖 (桂華)

商業美術部 (15名)

徳 島 市

浅 野 昌 敏

田 部 哲 男

永 井 道 子

福 井 章

宮 本 光 夫

小 松 島 市

沢 口 功

阿 南 市

岩 佐 雅 功

板野 節

斎藤 繁次

坂本 三十一

名西 節

吉本 寛

吉本 實

宗定 盛男

麻植 節

田中 一郎

第36回 徳島県美術展(県展) 公募規定

部門 区分	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑	美術工芸	音 道	商業美術	
搬入日	10月18日	10月17日	10月11日	10月18日	10月18日	10月11日	10月18日	
搬入先	徳島県郷土文化会館							
審査日	10月18日	10月18日	10月11日	10月18日	10月18日	10月12日	10月18日	
審査員	坂口麻沙子	吉井洋二	岩宮武二	土谷 武	田村 耕一	荒井天節・田中双鶴 田中柏翠・宮永昭雄 西岡楚峰	山城 隆一	
出品料	協会員 1点目 1,500円 その他の方 1点目 2,500円 ・2点目からはすべて 1,000円							
出品制限・大きさ・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・未公開作品に限る ・点数は制限なし ・小・中学校在学者は出品できない ・20号以上 100号まで、横幅2m以内、縦・伸張り(ガラス不可) 	同 左	<ul style="list-style-type: none"> ・同 左 ・横・縦写真とも画面サイズ、半切以上(カラーは印刷に限る) ・無断査以上は画面サイズ半切以上、縦写真に限る ・複製り・翻(組写真は1パネルに全作品をレイアウトしたもの又は全作品を固定したもの) 	同 左	<ul style="list-style-type: none"> ・高さ2m×幅1.5m×奥行1.5m重量200kg以内 ・材料は自由、展示可能なものに限る 	<ul style="list-style-type: none"> ・同 左 ・大きさ制限なし ・木・竹・金工陶磁・漆器・染色・織物・人形など 	<ul style="list-style-type: none"> ・同 左 ・大きさは仕上がりの寸法0.6m以上0.9m以内ただし横巾0.5m以内。(招標以上は0.4m以上0.7m以内) ・形式は自由 ・題・伸張り ・題門は漢字・假名近代詩文・前衛とする 	同 左
入 賞	特選3点 準特選2点 入賞若干点	特選5点 準特選6点 入賞若干点	特選8点 準特選11点 入賞若干点	特選1点 準特選2点 入賞若干点	特選3点 準特選2点 入賞若干点	特選9点 準特選15点 入賞若干点	特選3点 準特選2点 入賞若干点	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること。 ・展示作品は11月15日会期終了から17日午後4時までに搬出すること。 ・所定の期日までに搬出しない場合は、主催者において処分する。 							

招待・無鑑査・特別出品者名 (・は都合により不出品)

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|----------------------------------|--|---|--|---|----------------------------|--|--|
| <p>☆ 日 本 國
(船後村長萩田中矢
・庄權高山
(特別出品)</p> | <p>國
(特)藤上尾野本岡川野
野原岡内
之</p> | <p>南洋
(船佐永清榮中川崎高立露
(特別出品)
・荏河平佐長</p> | <p>寫 真
(船)增井木
特)島田上田</p> | <p>船留子夫弘夫備漢
壽 有人
春凌弘行正靖 秋 青三何春
此 隆 源 文 隆 康
志 二 慎 雄 史 孝 等 敬 嚴 幸
男 郎 む 郎 雄
勇 太 い 省 公
七 次 雄 之
正 清 光 英</p> | <p>二夫梵宇雄誠司 義文
行 隆 昭 憲 作 安 夫
一 盛 勇 男 浩 郎 子 之 武 介 一</p> | <p>征 雅 敏 博 和 照
良 文 俊 邦 文
誠 昌 猪 佐 幹 雄 慶</p> | <p>条西井内田測井森)好野
特)崎藤津口下田島東
朱 花 品 井 橋 查 下 下
西 勝 藤 武 登 博 酒 (船 三 上 彫
(船)河佐大浜井藤
(特別出品)
・坂 美 術 工 芸
(船)蓋新高森森七多
(特別出品)
・高 (船) 松 松</p> | <p>☆ 書 道
(書) 寬 天 鶴</p> | <p>鶴翠峰 香州泉人西鶴泉
秀石蘭月鶴舟舟月賀歌風子峰流
泉 壽 苑 榮 華 翠 秀
双相扇楚 幽堂泰三青阜清南莊草詩野想履古桂幾大湖史美景
虹 好 詩 友 桂 溪 泰
中 中 永 岡 稔) 保 居 岐 井 原 原 尾 辺 江 田 原 川 水 馬 藤 谷 谷 彌 查) 上 蘭 藤 田 辺 下 藤
田 田 宮 西 (船) 久 新 瀧 伸 官 長 高 西 成 渡 長 原 三 芝 前 清 美 春 岸 中 長 勝 (船) 川 三 近 松 波 井 (特別出品)
後</p> | <p>☆ 商 業 美 術
(特別出品) 定 查) 野
(船) 廣 昌</p> |
|---|---|--|----------------------------------|--|---|--|---|----------------------------|--|--|

博美展博美賞受賞者一覽 (昭和41~56)

年度	回	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑	美術工芸	書 道	商業美術
41	7	西岡範子	高橋敬	平山成美	細川直毅	森 浩	長原阜鶴	
42	8	中川健	長條公子	吉田紀夫	榑原八重美	"	長江清南	
43	9	天羽成芳	浜正寛	中西定雄	谷村薰子	長條公子	渡辺草石	
44	10	片岡良治	板東弘恵	川上健司	小野寺 徹	大西 光	成尾莊秀	
45	11	長谷 寿	"	原田敏雄	松永 勉	松下雄介	芝原醒鶴	
46	12	真鍋 学	霜田精奏	"	霜田精奏	"	喜多村成 暎	
47	13	"	岡 政明	岡地通雄	玉田修平	"	中口 操	
48	14	今川一水	小梯 篤子	矢口保二	吉田伯美	"	田中美智子	糸井由美子
49	15	大久保雅生	岡久 薫	吉田正勝	井藤信正	"	中尾勝子	永井道子
50	16	釣鳥冬樹	真野孝彦	大西健一	露口 幾也	"	久米 聡香	松波美子
51	17	吉崎 進	矢本次郎	小池良洋	美濃和子	多智花 佐代子	山本 寛水	森 敏香
52	18	大久保雅生	四宮久子	湯木 一生	槇木宏子	香川文孝	大松静子	増田伸寛
53	19	小松久子	鳥川 清	東条かつこ	中岡陽子	"	佐野天靖	浅野昌哉
54	20	日浦猛史	四宮久子	森 貢	伊勢洋子	松下慶一	長谷頌石	永井道子
"	大賞	西野和男	岡田 守	東条かつこ	(該当者なし)	多智花 佐代子	鈴木郁子	竹森陽一
55	21	中西芳雄	岡本 嗣子	林 敏彦	瀬部 瑞城	香川文孝	武市 鳴雲	増田和夫
56	22	佐々木文子	藤川 明子	"	(該当者なし)	松下慶一	佐原 和清	田村千代子

あ と が き

昭和56年度美術年報をおとけします。

表紙は美術工芸部の七条猪三郎氏からいただきました。

また、各部会長からも各部に関する動きをご執筆いただきありがとうございます。

さらに、このたびは、県展の創設期にあたる第6回展の頃のエピソードを洋画部委員の今田史男氏が綴ってくださいました。

このような記録を沢山の方々からおよせくださるよう心まちいたしております。

会員の皆様には、ますますご健康で創作活動に励まれますよう心からお祈りいたします。

昭和57年3月

県美術家協会事務局

昭和57年3月20日 印刷

昭和57年3月25日 発行

編集者 水 博

装幀者 七 条 猪三郎

発行人 河 野 太郎

印刷所 原田印刷出版株式会社

発行所 徳島県美術家協会

徳島市城ノ内1
県立図書館内 TEL52-3151